

きこえの懇談会 1月16日(土)スケジュール

- 8 : 4 5 神戸会場 開室 (神戸市立総合福祉センター4階)
兵庫県難聴者福祉協会・大阪市難聴者協会
・神戸市難聴者協会・情報保障
- 9 : 1 5 Z o o mスタッフ打ち合わせ
兵庫県難聴者福祉協会・大阪市難聴者協会
・神戸市難聴者協会・情報保障・司会者
- 9 : 3 0 入室・オリエンテーション
兵庫県難聴者福祉協会 理事長 増田 雅博
- 1 0 : 0 0 開会挨拶
全難聴 近畿ブロック幹事会 議長 栗山 敬
全難聴 理事長挨拶 理事長 新谷 友良
- 1 0 : 1 5 人工内耳について (途中休憩あり)
司会進行 全難聴 補聴医療対策部 中川 良雄
- 1 2 : 3 0 昼休憩
Z o o mはカメラOFF (退室しない)
Y o u T u b eは休憩中の表示
- 1 3 : 3 0 補聴器について (途中休憩あり)
司会進行 全難聴 補聴医療対策部 中川 良雄
- 1 6 : 0 0 閉会挨拶
兵庫県難聴者福祉協会 理事長 増田 雅博

以上

1月16日（土）きこえの懇談会 議題

※進行都合で前後することがあります

※太字追加分

人工内耳部門 10時～12時30分（途中休憩あり）

1. 健康保険と動産保険で対応できる範囲について詳細な説明がほしい。
2. 術前にメーカー選択の基準、情報を示して選べるようにしてほしい。
3. 新機種の場合、利点を言葉で並べるだけでなく客観的で具体的な資料、評価を知りたい。
4. 新規検討者、既装用者への情報提供を分けた情報提供の有効性について。
5. 地域での勉強会やユーザー同士の意見交換の機会を増やしてほしい（当事者会に入会しない人も多い）
6. 修理期間、代替機の用意などの期間短縮、利便性は進んでいるか。
7. 完全埋め込み型の実現や新機能は？今後の進化はどのような方向に向かうのか。あるいは向かってほしいのか。
8. 備品等、説明書がわかりにくい。
9. 補聴器装用から人工内耳装用へ、その移行期間での連続的、かつ丁寧な医療関与が必要ではないか。
10. 医療機関、医師による術式や技量の差異は存在すると考えて良いのだろうか。

補聴器部門 13時30分～16時00分（途中休憩あり）

1. ヒアリンググループの有効性、将来性について確認、代替え機能の現状について。
2. 適正な広告がおこなわれているのか。現状の規制、抑止はどうなっているか。
3. スマートフォンのイヤホンに補聴器機能が加わったものが市販されている。今後、補聴機能付 IoT デバイスの対応策はどう考えるか。
4. 補聴器の扱い方について丁寧に説明はあるか。実際に体験するなど、ヒアリンググループや通信機能などの付加機能についての十分といえる説明はあるか。
5. 補聴器のクレーム処理窓口の創設を望む。いつまでも消費生活センターに預けた形でサービス向上にはなるのか。
6. ハウリング抑制機能に頼りすぎた結果のハウリング対策をどう考えるか。
7. 供給、調整スキルアップのシステム化をどうするか。補聴器技能者、言語聴覚士の関与の実情。
8. 補聴器販売店には世代交代の宿命があるが、販売員を選べないような地事情があることもある。どのような対策が考えられるか。
9. 医療控除の扱いが相変わらず税務署裁量となっている実情について。
10. 医療機関、販売店において、複数の選択肢から選ぶ、という利用者の立場にた

- った提供方法は徹底されているのか。また、その実現に工夫はなされているか。
11. 補装具制度における補聴器給付基準に市町村格差や独自判断がみられるが、指針を整備する等の公平性は作れないか。
 12. 再修理にかかる費用や、合わなくなったイヤーマールドの修理費用の取り扱いはどうか。

共通項目

1. 医療機関窓口、診察室、病棟内での耳マーク周知の徹底。
2. 言語聴覚士から切り離れた聴覚士の創設は考えられるのかどうか。
3. 販売店、医療機関において補聴器や人工内耳のカウンセリングを受けるときに、あえて筆談や手話を使わない風潮があるのはなぜでしょうか。
確かに、聴覚活用を目指す機器の提供や調整を目的としています。かといって、視覚情報を少なくしたりすることが良い信頼関係形成になるとは思えません。